

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社 Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000945&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 2 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人」と「人」とのつながりを最も大切にし、地域で安心して暮らせる様に「挨拶が出来る地域交流」を理念としている。ホーム内に理念を貼り常に意識を持つ様環境作りをし、ケアと理念に隔たりが無いようカンファレンスで確認し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子供みこし、保育園児の歌披露や作品のプレゼント、近所からのおすそわけ、中元、お歳暮、近所との雪かき、お餅つき、中学校美術部からのキャンドルボールのプレゼント、又、介護相談の掲示で地域からの相談も受け地域の一人となる様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解・支援を日々の実践や研修を通じて得た情報等、運営推進会議を通して情報を伝え、地域に広めて頂いている。介護相談をいつでも受け入れてる事も伝えており、見学・相談者も時々ある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度は必ず行っており地域の方、ご家族、地域包括支援センターの方を交え、ホーム内の行事や取り組みを報告し意見も頂き参考にしている。消防署職員や小樽市介護保険課の方も日程が合えば出席して下さり貴重な意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との協力関係を築けるよう介護保険課・生活支援課・消防署・警察署・地域包括支援センターに相談・質問を行っている。電話相談だけでなく実際に尋ねて時間を作って頂き相談する事もある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に積極的に参加し、全職員が把握出来る様、ホーム内にて研修内容報告、勉強会をし、日々のケアを回顧し確認している。外出の訴え時は安全対策を含めいつでも対応出来る様にしご本人の気分転換となり楽しんで頂ける支援を行っている。ホームの玄関も夜間以外は施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会等に参加し、ホーム内にて研修内容等報告を行い、全職員が認識できるよう、又、日常生活の中で情報の共有を図りお互いのケアを確認しあい、虐待行為が見過ごされる事のないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、職員各々が理解しケアに活用できるよう研修内容を周知するよう努めている。成年後見制度も実際に利用されているご家族から体験談を聞いたり、要望のあるご家族へは資料をお渡しし、情報をお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームでの生活の様子を詳しく伝え、又、実際に見て頂く事で不安や疑問に対する説明を納得いくまで丁寧に説明するよう努めている。契約書・重要事項説明書を項目ごと順を追って、分かりやすい様説明し契約を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望や不安、又、ご家族の不安ご意見を随時頂ける様コミュニケーションの場を多く持つようにし早急に対応している。時には電話連絡が必要な時にも確認するようにしている。意見箱も設置し気軽に相談や意見の出せる体制も取っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションの中で気軽に意見交換や職員からの提案が得られるような環境を作っている。実際に出た提案で対応必要な事は職員の意見が反映されていると実感できるよう早急に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得資格、勤務年数・役職に合わせた給与体制をとり、スキルアップを目指せるように取り組んでいる。職員指導も各々の状況に合わせた指導や研修を行う事で同じレベルでやりがいの得られるような業務となり仲間意識を持ちつつ気持ち良く働ける場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた外部研修や、社内研修・系列GHとの合同研修、又、得意・不得意分野のホーム内研修を行っている。研修は皆が体験参加できるようシフトに合わせて行っている。研修後は報告書を作成し、ホーム会議や勉強会を開き共有し同じケアの方向性を持つよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH同士行き来しての相互間実習を行い他のホームの取り組みや参考にしたい所を反映出来る様質の向上に取り組んでいる。又、GH協議会主催の研修会や会議には毎回出席し交流を図っている。同系列のGHともイベントや研修会・合同会議で情報交換を行い質の向上に結びつけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を必ず行い、不安な事や困っている事を確認し、信頼関係を築ける様努めている。ホーム見学も数回行って頂き、場合によっては、実際にホームの食事を体験して頂く等して、雰囲気や職員の対応を感じ取って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問点や不安な事を確認し、安心して入居して頂ける様に、ホーム見学を何度でも行って頂き、要望等も含め、連絡を密に取り合いながら、信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添う事ができる様詳しくお話をお聞きし、必要としている支援につながる対応に努め、見学・食事・引越しの送迎・行政の手続きの代行等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事があれば行動に移して頂いたり、職員と一緒にいき、入居者様に常に尊敬と敬意をもって接している。喜怒哀楽を共有して、お互いに支え合う関係性を持ち、人生の先輩から教えを頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にレクの参加、外出や面会、相談、電話等の協力を得、入居者様を支え合う関係を築ける様努めている。特にレクでは参加だけでなく職員のお手伝いを快く引き受けて下さるご家族や受診に同行しその後外食での気分転換の協力を行って下さるご家族もおり共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の希望に添える様、昔からの知人との交流が出来、電話や年賀状などで、関係が途絶えない様支援をしている。また、外出時には馴染みの場所を通り、昔を懐かしむ事が出来る様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話を楽しめる様、職員が間に入り話が盛り上がる様に努めている。会話がかみ合わずトラブルになりそうな時は間に入り関係が悪化しないよう努めている。入居者様が他入居者様のお手伝いを行い、ホローし合い、支え合う関係も作られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様やご家族にとっては、契約終了後も思い出の場所である為、気軽に立ち寄って頂き、職員や入居者様と話し話等が出来る様努めている。ホームの近くに外出された時等には、リビングでお茶を飲み休まれ遊んで行かれる方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時やモニタリング時に日常生活の観察・会話の中で入居者様とご家族の希望や思いを確認しケアに反映出来る様努めている。訴えが困難な方は生活や表情の中から把握しケアに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や病院を訪問しご本人・ご家族に好きな物、馴染みの物、今までの環境や生活歴を確認しなるべく詳しく把握出来る様情報を頂いている。ご家族の協力を得て生活史、生活背景は知っている情報を記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一緒に生活し、行動し、見守りしながら出来る出来ない、分かる分からないを見極め把握し、現在困難な事でも、今後、少しでも可能となるよう、介助を行いながら現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人は勿論ご家族の声や意見も聞き全職員で情報交換している。サービス担当者会議にはご家族・医師・看護師も参加し意見や要望、医学的な意見も取り入れた、細やかな介護計画を作成している。モニタリングもご本人や職員其々の意見を確認しご家族からも思いを確認し次のプランへ繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やバイタル、食事、入浴、排便等を個別に記録している。小さな変化にも気付けるよう、情報の共有を図り、カンファレンスを行い同じ目線でケアを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や退去時の引越しのお手伝い、病院受診・リハビリの送迎、入院準備、外出・買い物の支援、行政の手続き代行等、その時々生まれるニーズに応じたサービスをご家族と相談し行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、町内会、近所の方から助言やお手伝いを頂いたり、高校生社会体験学習や保育園児訪問、中学生のクラブ活動での作品のプレゼント、ボランティア等の協力を得、地域から孤立することなく豊かで安全な生活となる様努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がおられない時は、提携病院の紹介をさせて頂き、了解を頂けたら適切な医療を受けられる様連携を取り支援している。又、他の病院を希望される場合も本人やご家族の意向に沿える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を日常生活から察知し週2回のホーム看護師の訪問時や早急な対応、必要時には電話にて伝えている。24時間連絡が取れる体制となっており急変時に備えている。往診受診時にも同行し情報提供や病院と電話にて情報交換、医療相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際にはお見舞いに伺い、ご本人の様子を確認すると共に、関係者に病状やADLの確認をし早期に退院出来る様情報を頂き退院後の生活に役立てている。退院後も病院のケアマネジャーや担当看護師とも連絡を取り合い情報を提供し、今後に活かせるような関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化した際の指針について説明した後にご家族に同意書を頂いている。生活状況や体調悪化等の変化が見られた際は再度意向を確認しご本人・ご家族・医師と今後の対応を相談・確認し其々の役割を確立できる様今後の方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の協力を得て全職員が応急手当や初期対応を行える様勉強会を行っている。日赤の救急対応研修・AED研修にも参加し急変時に備えている。避難訓練時にも消防署員から助言を頂いたり、地域から参加した方に屈託の無い意見を頂き役立てている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域（町内会）の協力で町内会館利用の了解も得ている。又、セコム・スプリンクラーの設置、系列GHの協力による緊急時一時避難所等、早急な対応がとれる体制にしている。年2回昼夜を想定した避難訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として個々の人格を尊重し尊厳を持ちプライバシーを損なわない対応を心がけている。生活の中で話を傾聴し人格の尊重に配慮した声かけに努め嫌な思いをせず暮らせる様な対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様本人の希望が優先されるケアを行い、職員都合で決定する事無い様努めている。意思疎通の困難な方にはハイ・イエで答えられる質問をし、思いを汲み取る事の出来る様な対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合わせ一つ一つの動作の声かけや説明をしてから行動に移したり見守りをしながら何か訴えや希望がないかを確認している。個人に合わせその人らしい生活を送れる様、起床や就寝時間、食事内容の変更、外出、ゲーム等の支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は自分が着たい洋服を選んで頂き、色合わせ等にも気配りしている。又、お化粧品や髪の毛のカラー、アクセサリーを付ける事を楽しまれ気分転換を図っている方もおられる。訪問理容室も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備を職員と一緒にこなったり調理の出来る方の協力を得たり味付けも入居者様からアドバイスを頂いている。食器、彩りにも気を配るようにしている。片付け、食器洗いや乾燥機セット、テーブル拭き等出来る範囲でお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し把握している。その時の状況でおにぎりや嚥下を考えたおじややミキサー食を提供したり、水分摂取時は声かけをし、飲みやすい味のものを提供したり、ストローやレンゲを使用する等工夫し十分な水分摂取が出来る様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の力で出来る所は磨いて頂き、困難な所は介助とブラッシング指導を行っている。歯牙についているプラーク除去のみならず、舌みがき・口蓋磨き、義歯洗浄も行い口腔ケアに努め誤嚥性肺炎予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活の中で排泄リズムを把握し声かけを行う事でパット汚染を減少させトイレでの排泄が出来る様に支援している。また、時間帯でパンツやパットの種類を変えたり、ポータブルトイレを設置したり、現状より少しでもレベルアップ出来る様な援助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、自力排便があるよう、毎日の「演歌体操」「みんなの体操」やお手伝いで体を動かして頂き、早朝の冷水や牛乳を勧める等の個別で対応し便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を好む場合や同性介助を希望される方にも気持ち良く入浴出来る様、希望に応じた対応で支援している。入浴剤も希望を確認し楽しんで頂いている。拒否される場合は全身清拭、陰部洗浄、足浴等で個別対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で出来る事を積極的に行って頂いたり、「演歌体操」「みんなの体操」を行う事で充実した生活となり安眠にも繋がる様に支援している。体調面や年齢、習慣を考慮しリビングや居室でゆったりと休んで頂く支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・変更・追加等、把握し常に情報を共有している。本人の様子観察を注意深く行い変化があれば医師に報告・相談している。服薬時は見守りや介助を行い飲み込むまでの確認を行い、誤薬が無いよう重複したチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の状況、生活歴、コミュニケーションから習慣として行ってきた事、好きな事、喜びを感じる事を確認しお手伝い等を通じて充実した生活となる支援に努めている。又、気分転換、楽しみのある生活となる様な支援も行いレクや昔ながらの風習（餅つき・まゆだま）も楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に副った外出が出来る様に努めている。外食や買い物等も希望に副える様現地の状況や介護車両の移動ルート等も詳細に把握している。又、ご家族が同行の希望の際は対応している。レク企画ではご家族や、近隣地域の方にも参加して頂いており時には企画者側のお手伝いも行っており下さっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	充足感を得られる様訪問販売や孫へのお年玉等積極的にお金のやりとりの機会を作っている。又、買い物ではカートを押す、選び購入し、レジで支払いをする一連の行動が社会の一員として経済活動に参加しているという気分を得る様な援助も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があれば、すぐに対応できるように努めている。家族や知人との交流が少ない方は、入居者様やご家族の意向を確認した上で、継続して連絡が取りあえるような支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時の移り変わりを感じられる様レクの度に飾り付け(まゆだま・クリスマスツリー・お雛様・入居者様との作品、誕生日会)をしている。衛生面では喫煙所に空気清浄機を設置しトイレも250倍希釈の次亜塩素酸ナトリウムで3時間おきに清掃・消毒している。室温と湿度にも注意を払い居心地良く過ごされる為に湿度温度チェック表を付け調湿壁・除菌加湿器を設置している。音楽を流す事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に入居者様一人一人の居心地の良い場所が作れるよう努めている。TVが好きな方は視聴しやすい位置に席を設けたり、ソファの座り心地が好きな方には専用の席を設けている。玄関前にはベンチを置き外部の人と気軽にコミュニケーションを取れる様にしている。喫煙所や廊下の端には椅子を設け、職員との談笑の場となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、以前の生活と違和感なく過ごせる様に、馴染みの物や思い出の品を持って来て頂き、居室に飾ったり、備品とさせて頂いている。仏壇・写真・ぬいぐるみ・タンス・ベット・など長年使いたれた物が揃った居室は入居者様にとって居心地の良い環境となっている。又、ご家族・職員からの贈り物を居室に飾り、楽しめる工夫もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな時計や見やすいカレンダーを用意したり、目印を設置して入居者様が「出来ること」「分かること」が維持出来る様に努め、さらに向上できる様工夫に努めている。又、一人一人の身体状況を考慮し、安全性が確保出来る様に環境整備を推進している。		